※令和４年度以降入学生用

学校番号	１０１４

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校「倫理」　（第一学習社）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

どの時代や社会にもそれ特有の課題があり、それに立ち向かい、考え抜いた人々がいます。この科目は心理学や哲学、倫理学、社会学にかかわる多くの用語を学習し、自らの「考える」力を養うための科目になります。

2　学習の到達目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて，青年期における自己形成と人間としてのあり方生き方について理解と思索を深めさせるとともに，人格の形成に努める実践的意欲を高め，他者とともに生きる主体としての自己の確立を促し，必要な能力と身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関わる基本的な事柄を，生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し，人格の形成に生かす知識として身につけている。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし，人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに，広い視野に立って主体的かつ公正に判断し，その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め，人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに，これらに関わる諸課題を探究する態度を身につけ，人間としてのあり方や生き方について自覚を深めようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第一章　人間の心と自己形成	1青年期の課題と自己形成 1.　人間とは何か 2.　さまざまな人間の心のあり方 3.　自立して生きる主体の形成	a: 人間の特質とは何かを理解し、自分の生きている青年期はどのような位置にあり，どのような発達課題があるのかを考える力を身につけている。 b: 自分自身の心に起こる状態を防衛機制の図にあてはめて考え，粘り強く欲求を抑制し，調整しながら目標達成を図る必要性を理解し、表現している。 c:生きることの意味についていろいろな視点から考え，今後の自分の生き方に生かす知識として身につけ、主体的に行動しようとしている。	授業観察 定期考査	授業観察 ノート提出 感想課題 定期考査	授業観察 ノート提出 感想課題
	第二章　人間の存在や価値と宗教	1ギリシアの思想 2ユダヤ教とキリスト教 3イスラーム 4仏教 5中国の思想 6宗教や芸術	a: 思想家や宗教のものの見方・考え方を理解することにより，宗教がどのようにして誕生したか，宗教の教えにはどのような特徴があるのかを理解し、知識を身につけている。 b: 世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ，宗教とは何かについて，意欲的に考察することができている。哲学や宗教の意義を考え，先人の生き方を手がかりに，どのように生きていくべきかを多面的・多角的に深く考察し、表現している。 c:生き方や人間観の特徴を，興味を持って探究することができている。日本に最もなじみの深い宗教について考察し、西洋と東洋の源流にある思想を比較して，人間の生き	授業観察 定期考査	授業観察 ノート提出 感想課題 定期考査	授業観察 ノート提出 感想課題

※令和４年度以降入学生用

			方について説いている内容の共通点と相違点を調べ，発表や討論をすることができている。社会における課題の解決に向けて、社会的存在として主体的に考え、行動しようとしている。			
後期	第三章　人間のあり方と社会	1人間の尊厳 2科学革命の時代と自然観 3自由で平等な社会の実現 4人間性の回復と主体性の確立	a: 人間の尊厳に関わる思想家の思索を通して，西洋の近代人は，人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考え、知識を身につけている。 b: 現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考え、先哲の思想の中から，人間の尊厳に関わる資料を収集し，活用し、表現している。 c: 人間の尊厳にかかわる思想家に興味をもち、今後の課題について主体的に考え、行動しようとしている。	授業観察 定期考査	授業観察 ノート提出 感想課題 定期考査	授業観察 ノート提出 感想課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度